

1.はじめに

自己点検・自己評価は、教育評価の一環として位置づけられ、実際の教育が当該目標をどの程度達成したかを見極め、それを次の教育活動へフィードバックする手続きである。評価・結果から再計画・実施・評価を繰り返し、循環的、継続的に行い、教育活動の質向上を目指すことであり、自校の維持・発展に繋がることが重要である。

前回、平成 27 年度に自己点検・自己評価を実施し、7 つの課題を抽出し重点目標に挙げ課題解決に向け取り組んできた。

評価カテゴリー(大項目)9 領域、「点検」(中項目)67 項目、「点検数」(小項目)116 項目を設定し、H30 年 12 月 17 日からH31 年 2 月 5 日に実施した。

2. 自己点検・自己評価の目的

当校の教育の質向上のために、教育活動とその他の学校運営について評価を行い、学校運営全体の課題を明確にし、組織的継続的改善を図る。

3. 自己点検・自己評価基準及び点検者

1) 評価基準

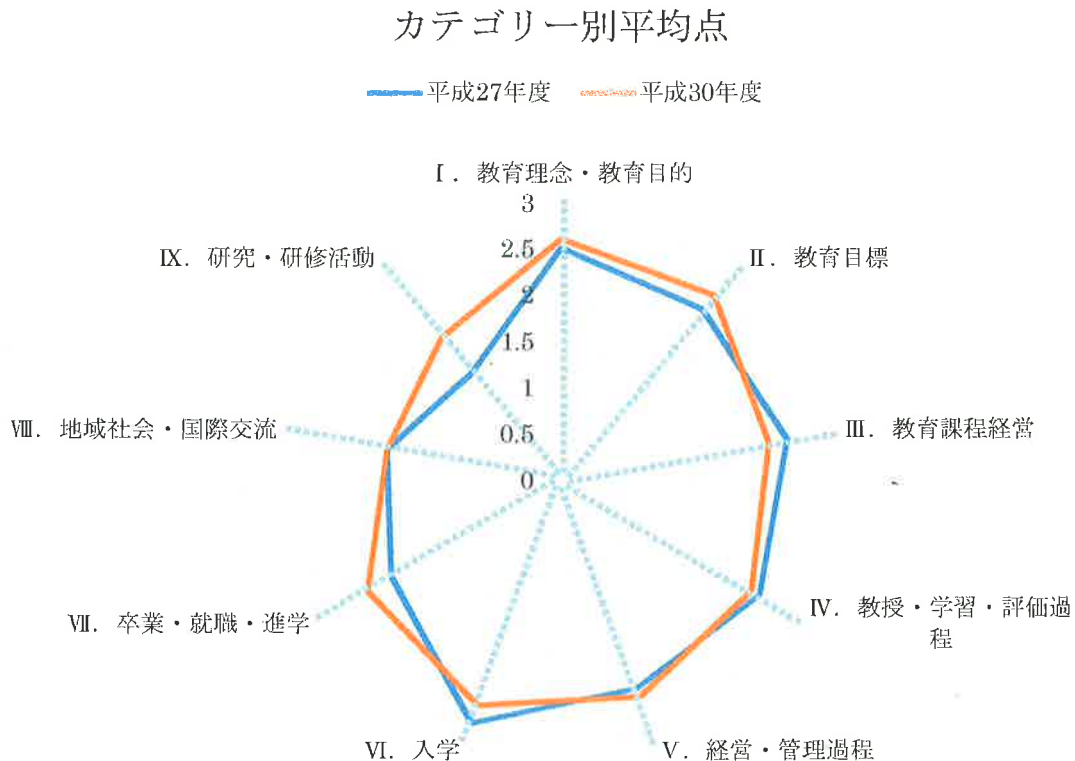
当てはまる・・・3 やや当てはまる・・・2 当てはまらない・・・1 の3段階とした。

2) 評価者

看護教員 13 名

4. 自己点検・自己評価結果

1) 大項目ごとの平均値を前回と比較



5. まとめ

今回、新たな点検項目・システム全体を見直した評価項目での実施は2回目である。

前回実施の評価・分析から7つの課題を挙げ、毎年の業務重点目標として課題解決に向けて取り組んだ。

前回より、評価結果が優位なカテゴリーは、Ⅰ、教育理念・教育目的 Ⅱ、教育目標

Ⅴ、経営・管理過程 Ⅶ、卒業・就職・進学 Ⅸ、研究・研修活動で、9カテゴリー中5カテゴリーであった。前回より、低いカテゴリーは、Ⅲ、教育課程経営 Ⅳ、教授・学習・評価過程 Ⅵ、入学の4カテゴリーで、変わらなかったカテゴリーは、Ⅷ、地域社会・国際交流であった。カテゴリー毎の評価の概要と課題は、別紙を参照していただきたい。

附属看護学校としての強みを活かし、更に評価の低いカテゴリーに対し当校の課題として取り組んでいく必要がある。同時にこれらを解決していくためには年度ごとの目標に挙げ組織として段階的に取り組むことが必要である。

今回、自己点検・自己評価を実施するに当たり、自己点検・自己評価の目的、意義等を説明しマニュアルも更新したが活用がされていない現状がわかった。教務会議でマニュアル活用を確認したがわずか2名であった。特に、国家試験合格状況では、ここ3年は全国平均を上回っているが、当てはまらない1人、やや当てはまらない4人の結果である。自己点検・自己評価結果の信憑性に疑問が生じる。丁寧な説明とマニュアル活用の方法の周知が必要であった。

課題

1. カリキュラム改正に向けた計画的な準備
 - 1) ワークショップ・・・現カリキュラムの問題点の明確化
 - 2) カリキュラム改正準備プロジェクトの編成・・・領域の課題の明確化
 - 3) 教務会議で定期的な話し合い
 - 4) 研修会への参加
2. 卒業生の就職先での評価の把握・問題の明確化（卒業生の動向調査）
3. 看護教員の教育の質向上
 - 1) 教員ラダーの実施・評価
 - 2) 計画的な研修会への参加
 - 3) 臨床研修の実施・・・長期休暇中に実施
 - 4) 人事交流の計画的な実施
4. 危機管理マニュアルの完成
5. 自己点検・自己評価マニュアルの見直し・周知
6. 君津中央病院附属看護学校の将来構想の明確化
7. 入学試験要項の見直し